

⑫実用新案公報 (Y2)

平1-35785

⑬Int. Cl. 4

B 23 H 7/08
B 26 F 3/12

識別記号

府内整理番号

⑭公告 平成1年(1989)11月1日

8813-3C
7366-3C

(全4頁)

⑬考案の名称 ワイヤカット放電加工装置用ワイヤ切断装置

審判 昭61-19246 ⑭実願 昭56-87488 ⑬公開 昭57-202629

⑭出願 昭56(1981)6月16日 ⑭昭57(1982)12月23日

⑬考案者 古川利彦 神奈川県大和市つきみ野1丁目10番地の15

⑭出願人 株式会社 ソディツク 神奈川県横浜市港北区新横浜1丁目5番1号

⑬代理人 弁理士 高野昌俊

審判の合議体 審判長 松浦兼生 審判官 大森陽一 審判官 片寄武彦

⑬参考文献 特開 昭56-76338 (JP, A) 特開 昭50-50797 (JP, A)

特開 昭51-104693 (JP, A) 特開 昭54-141490 (JP, A)

1

2

⑬実用新案登録請求の範囲

ワイヤカット放電加工装置用のワイヤ電極を切断するためのワイヤ切断装置において、前記ワイヤ電極の切断時に前記ワイヤ電極が走行することないように前記ワイヤ電極を拘束するため前記ワイヤ電極の走行路中に配設された第1手段と、前記ワイヤ電極が前記第1手段により拘束されている場合に前記ワイヤ電極に切断用の引張力を与えるため前記ワイヤ電極の走行路中に前記第1手段と間隔をあけて配設された一対の送りローラと該一対の送りローラを駆動するための駆動部とから成る第2手段と、前記第1及び第2手段によつて前記ワイヤ電極の前記引張力が加えられている場合に前記第1及び第2手段を介して前記ワイヤ電極の前記第1手段と前記第2手段との間に部分に切断用加熱電流を供給する回路手段とを備えて成ることを特徴とするワイヤカット放電加工装置用ワイヤ切断装置。

考案の詳細な説明

本考案はワイヤカット放電加工装置用ワイヤ切断装置に関し、特に、自動結線装置と併用するのに好適なワイヤカット放電加工装置用ワイヤ切断装置に関する。

ワイヤカット放電加工装置に用いられるワイヤ電極を切断するために従来から用いられている装置としては、刃先を持つたカツタにより機械的に切断する装置、又はワイヤ電極に大きな電流を流

すことによりワイヤ電極を焼き切るようにした装置等が広く用いられている。併しながら、上記の従来装置によりワイヤ電極を切断した場合には、その切断端部の形状が、圧壊又は溶融のため、第5 1図に示されるようにワイヤ電極Wの直径よりもむしろ太くなる傾向にある。従つて、このようにして切断されたワイヤ電極の切断端部を自動結線装置を用いてガイド又は被加工物上の加工開始点にあけられた孔に貫通させる場合、切断端部をガイド、孔等に円滑に貫入させにくく、結局人手によつてこれらの作業を行なわなければならない場合も生じていた。

本考案の目的は、従つて、ワイヤ電極をガイド、孔等に円滑に案内できるように端部処理を行なうことができる、構成が簡単で従来のワイヤカット放電加工装置にも容易に適用可能なワイヤカット放電加工装置用ワイヤ切断装置を提供することにある。

以下、図示の実施例により本考案を詳細に説明する。

第2図には、本考案によるワイヤ切断装置の一実施例が概略的に示されている。ワイヤ切断装置1は、ワイヤ電極2が巻かれているボビン3と、被加工物4との間のワイヤ電極走行路中に設けられていた。ボビン3から繰出されたワイヤ電極2はワイヤガイドローラ5、6を介して下方に延び、ワイヤ切断装置1を通つて被加工物4の加工

開始孔4aに貫通し、図示しないワイヤ電極巻取り装置により巻取られる。

ワイヤ切断装置1は、切断時にワイヤ電極2が走行しないように固定するための第1ローラ対7と、ワイヤ電極2が第1ローラ対7により拘束されている場合に該ワイヤ電極2に切断用の引張力を付与するための第2ローラ対8とを備えている。第1ローラ対7は、軸線が平行となるように回動自在に接近して並設された2つのローラ7a, 7bとから成り、ワイヤ電極2はこれらのローラ7a, 7bにより両側から適度の力で押圧され、ワイヤ電極2は各ローラ7a, 7bの周面と摩擦的に係合した状態で走行する。ローラ7bの回転を拘束することによりワイヤ電極2の走行を停止させる目的で、ローラ7bの近傍にはブレーキ装置9が配設されている。ブレーキ装置9は、弾発ばね10により付勢されてローラ7bの周面に圧接されるブレーキシュー11と、弾発ばね10のばね力に抗してブレーキシュー11をローラ7bから離反させる電磁アクチュエータ12とを含んで成り、スイッチ13が閉かれている場合にはブレーキシュー11によりローラ7bの回転が拘束され、ワイヤ電極2の走行が停止される。一方、スイッチ13が閉じられると、電磁アクチュエータ12はバッテリ14により励磁され、ブレーキシュー11によるローラ7bの回転の拘束が解除される。

第2ローラ対8もまた、軸線が平行となるように回動自在に接近して並設された2つのローラ8a, 8bとから成り、ワイヤ電極2は、これらのローラ8a, 8bにより両側から適度の押圧力をもつて挟まれている。ローラ8aの回転軸15は、ギヤボックス16を介して駆動モータ17の駆動軸18に連結されており、ギヤボックス16内には回転軸15の回転方向を切換えるためのクラッチ(図示せず)が設けられていて、このクラッチを操作することにより、ローラ8aを矢印A方向又は矢印B方向に回転させることができる。第2ローラ対8においても、ワイヤ電極2は各ローラ8a, 8bの周面と摩擦的に係合しており、従つて、ローラ8aの回転方向を矢印A方向に選ぶとワイヤ電極2は下方に送り出され、矢印B方向に選ぶとワイヤ電極2は上方に送られることになる。

更に、第1ローラ対と第2ローラ対との間にあらるワイヤ電極に切断用加熱電流を供給する目的で、加熱回路19が設けられている。加熱回路19は、摺動接触子20, 21との間に電流制限用可変抵抗器22、バッテリ23、スイッチ24が直列に接続されてなり、各摺動接触子20, 21は図示しない支持部材により支持されていて、導電性材料から成るローラ7a, 8aに摺動接触されている。従つて、スイッチ24を閉じると、各摺動接触子20, 21及びローラ7a, 8aを介して、第1ローラ対7と第2ローラ対8との間のワイヤ電極に加熱電流を流すことができる。この加熱電流の大きさは可変抵抗器22の値を調節することにより制御可能であり、この装置においては、ワイヤ電極2が溶融しない程度の大きさに設定される。

尚、第2図中、符号25で示されているのは重錐であり、重錐25は、ブーリ26を介してワイヤ電極2に懸吊されており、これによりワイヤ電極2はワイヤガイドローラ6とワイヤ切断装置1との間に張架される。

次に、第2図に示したワイヤ切断装置1の動作について説明する。

ワイヤ電極の切断を行なわない場合には、スイッチ24は開状態にあり、スイッチ13は閉じられていてブレーキシュー11はローラ7bから離反している。そして、第2ローラ対8は駆動モータ17により矢印Aで示される方向に回転し、ワイヤ電極2を被加工物4に向けて送給している。一方、切断装置1によつてワイヤ電極2を切断する場合には、スイッチ13をオフとしてブレーキシュー11をローラ7bに圧着せしめてローラ7bを拘束し、これによりワイヤ電極2が走行できないように、ワイヤ電極2は第1ローラ対7によりしつかりと把持される。これと同時にギヤボックス16内のクラッチの切換えにより、第2ローラ対8は矢印B方向に回転駆動され、従つて、ワイヤ電極2には、第2ローラ対8によりワイヤ電極2を切断するための張力が印加される。更に、スイッチ24が閉じられ、第1, 第2ローラ対の間にあらるワイヤ電極に加熱電流が流され、この部分のワイヤ電極は相当高温になる。このように、ワイヤ電極の切断予定部分を加熱すると同時に引張力を付与すると、ワイヤ電極2は、伸長し

つつ切断されるので、その切断端部は第3図に示されるように針状となる。この場合、加熱された切断予定部分に引加する張力は、切断予定部分が徐々に引きのばされるような引張力であるのが好ましく、急激な引張力を与える手段で張力を与えるのは好ましくない。このように、ワイヤ電極2の切断予定部分に引張力を与えて切断すると、切断端部が針状になる上に、切断端部が硬化するので、この切断端部をガイド、溝、孔等に貫入する際に貫入動作を簡単且つ確実に行なわせることができる。

本考案によれば、上述の如く、ワイヤ電極の切断端部を針状にすることができる上に、その針状部を硬化させることができるので、ワイヤ電極を孔、溝等に貫入することができる簡単、且つ確実に行なえるようになり、従つて、特に、切断後、自動結線装置によりワイヤ電極の結線を行なう場合に、失敗なく、確実に結線作業を実行することができ

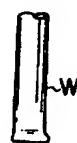
る。更に、本考案によるワイヤ切断装置はワイヤ電極に直接加熱電流を流すので、効率が良く、また、加熱されたワイヤ電極に引張力を与えるための手段をワイヤ電極の走行路中に配設する構成であるから、既存のワイヤカット放電加工装置にも簡単に取り付けることができる等の格別の効果を奏するものである。

図面の簡単な説明

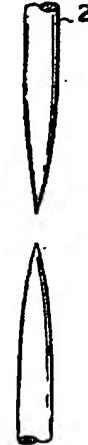
第1図は従来の装置により切断されたワイヤ電極の切断端部の状態を示す側面図、第2図は本考案の一実施例の概略機構図、第3図は第2図の装置により切断されたワイヤ電極の切端部を拡大して詳細に示す正面図である。

1……ワイヤ切断装置、2……ワイヤ電極、7
15……第1ローラ対、8……第2ローラ対、7a,
7b, 8a, 8b……ローラ、9……ブレーキ装置、19……加熱回路、25……重錘。

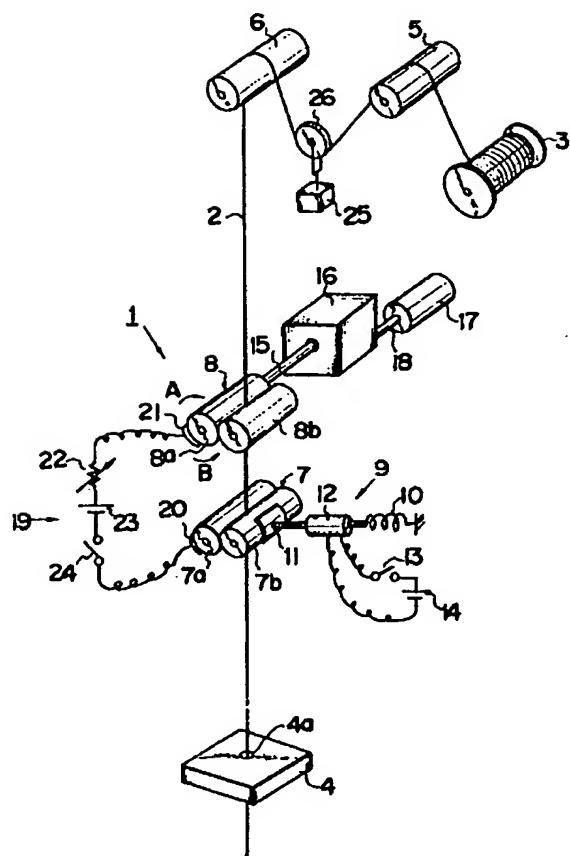
第1図



第3図



第2図



5-708US-EnAbstract.txt

JP 1-35785 Y2 11/1989

(54) WIRE CUTTER FOR WIRE ELECTRIC DISCHARGE MACHINING APPARATUS

(57) Abstract:

PURPOSE: To surely and smoothly guide a wire electrode into wire guides and an initial hole by treating the tip of wire electrode.

CONSTITUTION: A first pair of rollers 7a and 7b and second pair of rollers 8a and 8b are provided along a wire transport path. The roller 7b is connected to a brake device 9 and the roller 8a is connected to a drive motor 17. The brake device 9 includes a brake shoe 11 and an electromagnetic actuator 12. The brake shoe 11 is pressed against the peripheral surface of the roller 7b by a spring 10 and the electromagnetic actuator 12 separates the brake shoe 11 from the roller 7b in the teeth of the spring 10. A heating circuit 19 is connected to the rollers 7a and 8b to supply a heating current. A wire electrode 2 is constrained by the first pair of rollers 7a and 7b and tensioned by the second rollers 8a and 8b and cut by the heating current. A wire electrode 2 is cut by supplying current and tensioned by driving the second pair of rollers 8a and 8b. Thus, the wire electrode 2 has a tapered tip and can be surely threaded.